



青山神明遺跡

発掘だより 11号

令和 7年 9月 26日



25D 区位置図

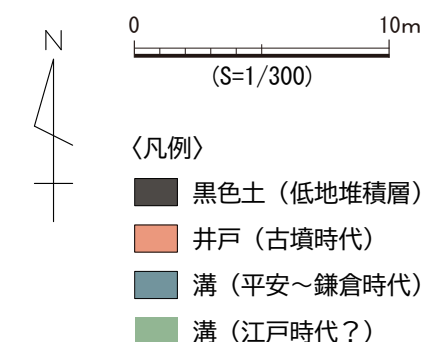
◆ 25D 区の調査成果

青山神明遺跡 25D 区は神明公園の西隣にあります。令和7年5月末から7月初旬まで調査を実施しました。調査の結果、古墳時代前期末から中期初頭の井戸が1つ、平安時代後期から鎌倉時代にかけての溝3条、江戸時代とみられる溝1条などが見つかりました。

古墳時代の井戸は深さ約60cmの浅いものですが、非常に硬い地盤に到達しています。その地盤の上を通る水（伏流水）を汲み上げていたのでしょう。井戸は使われなくなったらごみ穴として利用され、土器をまとめて廃棄しています。

平安時代後期から鎌倉時代の溝3条は、いずれも溝が埋まりかけのタイミングで山茶碗が入り込んでいます。このうち、溝2は直角に折れ曲がっています。青山神明遺跡ではこのような溝がたくさん見つかっており、平安時代後期から鎌倉時代にかけて、大きな土地改変があったことがわかります。

江戸時代とみられる溝は、実のところ時代を特定できる明確な遺物が出土していないので、大まかな推測になります。これはおそらく、まわりが畑となっていたために茶碗などが出土しにくい状況になっていたのではないかと考えられます。



編集



公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター

〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24

<http://www.maibun.com>